

研究課題 (テーマ)	特徴ある統合分野選択科目修得のための教材開発での基礎研究 -糖尿病看護論に焦点をあてて-		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部	教授	片田 裕子
研究結果の概要			
<p>【目的】</p> <p>本研究の目的は、統合分野科目として修得すべき糖尿病看護論で国内外の教育状況を踏まえ、必要な学修内容を文献、実態調査から明らかにし、効果的な学修教材開発を行うための基礎研究とした。</p> <p>【背景】</p> <p>当大学開設以来、2022年度、初めて学部4年次、統合分野での選択科目として糖尿病看護論が開講となる。全国的にも数少ない特徴的な科目の位置づけでの学修と世界的な糖尿病罹患患者急増に伴う多様な看護ニーズに対応できる人材育成を目的に質の高い、効果的な学修を支援する教材開発を行うことは急務であると考えます。</p> <p>糖尿病に関しての研究、教育に精通した科目担当者が学生のニーズや社会状況を鑑み、幅広い視野での学修を支援する教材で卒業時到達目標を意識した統合分野で開発した研究はなく、画期的といえる。</p> <p>【方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学中央雑誌 Web 版、CINAHL、PUBMED を活用し、過去 10 年間、大学での糖尿病看護教育に関する文献を検索し教育状況の把握、教材の内容としての必須項目、教育上の課題を抽出し、分析した。 2. 看護系大学協議会からの「卒業時到達目標コアコンピテンシー」を参考に学習内容、実践項目について整理した。 <p>【結果】</p> <p>日本の大学での糖尿病看護教育は、embodiment care を目指す専門科目の 1 教科の 1 部分の位置づけが大半であった。統合科目としては、大学 2 校のみであった。東アジアでは、急増する 2 型糖尿病患者に対する実践的技術に関連する教育が、米国では、糖尿病患者理論として sunrise model の適用が抽出された。「自己効力感の高まり」「アドヒアランス向上」「療養行動の定着」「心身状態の改善」を意識下においた教育が共通していた。近年、意図的に患者の resilience を高めるための講義と演習を組み合わせた教育も開始されていた。実践項目については、状況設定によるシミュレーション教育の手法を取り入れ、e-ラーニング、ロールプレイ、模擬患者による演習から糖尿病の合併症やセルフケアの困難さ、複雑さの理解に基づき患者イメージを深化させることが重要であることが示唆された。</p> <p>本研究の結果は、今後、看護系の学会にて成果を発表する予定である。</p>			
今後の展開			
<p>国内外の大学教育での糖尿病看護論の内容は、社会状況により異なることが明らかになった。この研究の成果を基に、検討を重ね、学生の学びを踏まえた教材開発、総合的な教育プログラム作成を目指す。</p>			